

成果報告書

地域部活動推進事業

担当部署			
所在地	沖縄県浦添市	運営形態	・地域文化芸術団体等運営型
運営主体	特定非営利活動法人琉球交響楽団		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽教諭、吹奏楽部顧問教諭の人事異動の理由などで継続的に安定した技術指導が行われてない為、部員数の減少がある。 ・1人の顧問が全生徒の技術指導(特に初心者)を行うには授業終了後の部活動時間内だけでは限界がある。 ・楽器演奏初心者の生徒が多く、一人一人基礎から指導していく必要がある。 		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の技術向上 ・各パートごとに月1回は指導を行う ・次回までの課題を与え向上意欲を促す ○演奏する充実感や自己肯定感の向上 ・技術が向上することでさらに上の目標を目指す→コンクール参加者3名 ・成果発表会を開催→2回 ○指導教諭の負担を減らす 		
団体・組織等の連携			
拠点校等	南城市立佐敷中学校		
活動場所	南城市立佐敷中学校音楽室		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートごとに指導を行い技術の向上を図った(8パート40回) ・技術指導のみならず、楽器のメンテナンス、取り扱いなど基本的な指導も行った。 ・沖縄県アンサンブルコンテストに向けてアンサンブルにも取り組んだ。 		

○本事業による成果

- ・生徒の技術が向上したことにより地域のイベントや公演の依頼演奏が増えた。
- ・部活顧問にとっては指導者が入ることによって負担軽減となり、自分の使える時間が増えた。
- ・実技指導を受け技術の向上により合奏する楽しみ、喜びが増えた。
- ・部活動にて取り組んでいる合奏曲も指導することで達成感や充実感を味わうことができた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・小規模のため、楽器のメンテナンスやリードの選び方など基本的なことから指導した。
- ・経験数による実技レベルに差があった場合は個々に対応した。
- ・部活動にて取り組んでいる合奏曲も指導を行った。

○運営上の工夫

- ・大型楽器など移動が困難な楽器もあるため、学校の音楽室などを使用して指導を行った。
- ・吹奏楽部の生徒が少人数のため、楽器のメンテナンスやリードの選び方など時間をかけて基本的なことから指導した。

○継続的な運営に関する課題

- ・予算確保と運営責任者となる人材確保、練習場所の確保
- ・大型楽器の保管、借用
- ・学校との連携、保護者への対応は地域指導者が行うのか。(教員からの懸念事項)
- ・定期的に使用できる練習場所は学校が望ましい。
- ・プロの指導者を定期的に行うには日程確保が困難なため
地域移行した際には、定期的に指導できる人材の確保が必要
- ・教育委員会への周知不足が感じられたため地域移行に関する周知を徹底する必要がある。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

【沖縄県教育委員会】

- ・「部活動の在り方(改訂版)」・「県高校部活生メッセージ2023」の周知徹底・学校訪問(主に部活動指導員配置校)
- ・部活動指導員配置事業
- ・国の補助事業の活用検討・周知・調整・申請
- ・地域移行に関する検討会議(年2回)
- ・意見交換会

【高文連】

- ・1「大会の全体像を把握」2「大会等の統廃合を主催者に要請」3「大会数の上限の目安等を定める」
- ・「部活動の在り方(改訂版)」・「県高校部活生メッセージ2023」の周知徹底
- ・地域移行に関する検討会議(年2回)
- ・地域移行に関する検討会議(年2回)

【中文連】

- ・1「大会の全体像を把握」2「大会等の統廃合を主催者に要請」3「大会数の上限の目安等を定める」
- ・「部活動の在り方(改訂版)」の周知徹底
- ・地域移行に関する検討会議(年2回)

【市町村教育委員会】

- ・1「大会の全体像を把握」2「大会等の統廃合を主催者に要請」3「大会数の上限の目安等を定める」
- ・「部活動の在り方(新方針)」の周知徹底・学校訪問(主に部活動指導員配置校)・兼職兼業の服務監督、学校と施設利用にかかるルールづくり及び調整
- ・中学校における

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	27人
	募集方法	
指導者	人数等	8名
	募集方法	事業運営団体より県内で指導実績のある講師を派遣
参加者の移動手段		
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 5100円/時間
	その他	
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	
	年間	令和4年5月～令和5年2月まで40回
保険加入等		

【活動の様子（写真添付）】

